

名前のいろく

助教授理學士 上田 穰

五、小遊星

火星と木星との軌道にまたがつて約一千個の小遊星が散在してゐるが此等の多くの星に對して一つく名前をつけることは可なり面倒な仕事に相違ない。

その最初の一星が発見せられたのは御承知の一八〇一年一月一日夜のことであつた。當時ドイツではボーデといふ人の主唱でもつて火星と木星との間には多分未知の遊星があるだらうといふ見込みから、それを発見する目的で一つの會を組織し二十四人で天空の一部分宛を分擔してさがすことになつてゐたのであるが伊太利のピアジといふ人が其會には無關係にお先きへ失敬して終つたのである。この遊星にはケレスミといふ名前が付けられた。

それまで発見せられてゐた遊星には何れもギリシャ神話にある最高級の神々の名がつけられてあつたので、即ち天王星(ウラヌス)は建國の神様であり、其子が土星(サツルヌス)で土星ミレアミの子供が木星(ユピテル)である。

火星(マルス)は木星の配偶ユノが獨力で生み落した子であり金星(ヴェヌス)は木星ミデオネとの間の娘である。そして水星は木星がマヤに生ませた子供である。

勿論これ等の大遊星の名前が星辰發展の順序を示すものでないことは申すまでもないことである。

ケレスが発見せられた時分には、それは他の大遊星と同じ仲間の遊星であるを考へたことであらうからして、他の遊星の仲間としてフサはしい様にギリシャのオリンポスの神々の中にも名高い十二神の中のケレスといふ名を付けたのである。ケレスは土星ミシペラとの間の子供である。

翌年オルベルスが他の小遊星パラスを発見し、こんで一八〇四年及び七年にはハーディングとオルベルスが夫々ユノ及ヴェスタを発見したが其後久しく小遊星の新発見もなかつたので例のドイツの會も解散して終つた。

しかるころ一八四五年にいたつてヘンケがアストレアを発見して以來、四六年にはなかつたけれども四七年から引續いて毎年毎年少遊星の斯発見が相ついでまづ應接に暇がないといふ風を呈したのである。特に一八九一年にウオルフが寫眞によつて小遊星発見の法をはじめてからは急激に其數を増したのであつて、そして十九世葉紀の終りにはやがて四百五六十の小遊星が発見せられたのである。

こうなるに日本の様に八百よろづの神々がまします神國ならいざ知らずギリシャの神々の名丈では種切れになる筈で地名や人名なども用ゐられる様になつた。日本で発見せられたものは、東京天文臺で発見せられた二つだけで最初のものは

四百九十八番の東京ミ命名せられたもので、も一つは七百二十七番の日本ミいふものである。一體この命名は第一の発見者がつける様な習慣になつてをるので右兩者共東京天文臺で名付けられたものである。尤も最初は「ニッボン」ミ命名せられたのであるがラテン風に「ニッポア」ミいふのが本名ミなつて登録せられてゐる次第である。

尙一つ面白い名前はウォルフが発見命名したものに「バーナディナ」ミいふのがあるが、それはリックにゐられた故バーナード教授が存命中のこゝであつたがそれをアメリカあたりではバーナード氏のためにつけられたミ報ぜられたものだつた。しかしウォルフからバーナード宛の手紙によりそれはバーナード氏の故夫人を記念のために贈られたこゝが明かにされた様な次第であつた。

なほ又、固有名詞澤山では覺えにくく、却つて紛はしいので発見の順序に番號をつけるこゝをグールドが申し出したのである。即ちケレスを1、パラスを2ミいつた工合である。又只番號の數字だけでは間違ひ易いからその數字を「圓」でかこんで置くこゝが多い。こゝで名を付けるのに就いて困るのは、この小遊星なるものが極く小さい天體であつて今迄に知られてゐる中にて一番大きいものでも尺徑し千キロメートルにも及ばないものばかりで「誰か鳥の雌雄を知らん」ミいふこゝろではなく見ただけでは一寸見分けの付かないものである。

只その區別はその小遊星が太陽をまわつてゐる軌道の性質でするより外ないのである。それがために、ある人が小遊星を発見したミいつたこゝろですぐそれに名前をつけるミいふ譯にはゆかないで暫らく引きつゝいて觀測した材料から計算の上で軌道の形や大きさを求めねばならない。それに付けても小遊星運行の軌道が大遊星のため局部局部に影響を受けてゐるから今似通つてゐる二つの小遊星については果して別物やら又同じものやらそのケジメが仲々つけにくいミいふこゝになる。

それで各所でやる計算の手續をはぶく爲めに、ドイツに中央局を設けて各発見者はその材料をこゝへ送付しそして計算の上新発見を確定しやうミいふこゝにしたのである。

その受付に應じて假りの受付番號をつけた。即ち一八九二年のウォルフの発見の小遊星を一八九二年Aミ呼び順次B・Cミ假名を付けて置いたが、一八九二年Aは新発見を認められて三百三十三番バディニアミ本命名を了しBは以前発見のエリゴネの再來だミいふこゝがわかつたのである。

一八九三年からは又その取付に應じてA・B・C……ミつけたが多數の発見があつたのでX・Y・Zミ付けきつて終つたので次に発見せられたものは一八九三年AAの名を得たが後本名アミキタミなつた。その年はAPまで進んだので翌一八九四年最初の発見はその後をついで一八九四年AQミしたが其後は

であつて今迄に知られてゐる中にて一番大きいものでも尺徑AR、AS、いふ風に押していつてAZの次ぎにはBBではなく矢張りBAから初めるこゝにしてゐるのである。

但しこの場合Iの文字は使用しないからAAからZZまで六百二十五ある譯であるが丁度一九〇七年ウオルフの發見した六百四十三番で盡きてしまつたので、その次の同年コップの發見したコシマは一九〇七年AAに假り名を付けられた次第である。更に其順序も一九一六年には盡きてしまつたので第三のAAからはじまつてゐるのである。

これでゆけば文句はないものゝ、例の歐洲大戰中では獨逸ミ聯合國の間では學術上にも聯絡をたゝれて終つた様な次第で一々新發見の小遊星を通知するこゝが出来なかつた。仕方がないのでアメリカでは一九一六年a、いふ風に彗星流義に名前をつけられたものである。

又クリミアのシメイス天文臺では澤山發見せられたものをL、M、いふ風に假名をつけて置いた、Mはシメイスの頭文字をこつたものである。

しかし平和克復後夫々同一か如何は認定せられたのである

すばるを歌へる農歌

私が休暇に故郷である邑久郡へ返りますミブレイヤデスを歌つた歌を發見しました。次の歌がそれです。

すばるまぎきに、そばまけば、そば一升に粉八合

それを團子にこねたなら、八人家内に七つあて

まいふのです、このまぎきは南中する時だそうです。此

歌を見るまやはり、我國人もブレイヤデスを農業に關係があるミ認めたこゝが知れます。

岡 山 奥 田 穀

* * * *